

全日本合唱連盟ガイドライン改定 より踏み込んだ表現、活動継続が基本

全日本合唱連盟は、「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」第3.1版を公開しました。今回で4回目の改定ですが、明確でなかった箇所を修正したマイナーチェンジです。

基本はいかに合唱活動を継続するか

改定版は、文化庁や文科省が提示している「十分な感染拡大防止策を講じた上で、全国大会やコンクールへの参加機会の確保をする」つまり「合唱始め文化芸術活動を停止するのではなく、いかに継続させ発展させていくか」に焦点を合わせています。

業種別のガイドラインを参照するなど、具体的な対策を練るよう推奨しています。業種別ガイドラインとは、①劇場、観覧場、映画館、演芸場、②集会場、公会堂等、23種の事業ごとに関係団体が策定しています。全日本合唱連盟は①に該当する団体としてガイドラインがリストアップされています。

改定版では、現在問題となっているオミクロン株については「とりわけ変異株の拡大にはより注意が必要」と注意の喚起にとどまっています。

オミクロン株について現在言われているのは、デルタ株に比べて感染スピードが極めて速く、軽症や無症状の割合が多く、デルタ株での療養体制とは大きく異なるとされていますが、感染者急増により、高齢者や基礎疾患を有する人へ伝播が進むことで入院者が増加し、コロナ対応病床の逼迫が危惧されています。感染を拡大させないためには、感染から自らを守り、他人に感染させない慎重な行動が求められる点はこれまでと変わりありません。

あらためて不織布マスクを推奨

正しいマスクの着用についてあらためて明記されました。材質としては不織布、鼻と口の両方を隙間がないよう覆える形状がベストとしています。マウスシールドや下部の開放が広いマスクなど隙間のある形状は推奨できない、フェイスシールドも的確に取り扱わないと感染を拡大する恐れがあるので推奨しないと明記されています。また、「必要に応じてマスクを着用する」→「感染対策上必要な場面ではマスク着用を徹底する」、「会場内での飲食は控える」→「会場内で飲食を行う場合は、

向かい合っただけの会話をしないなど十分に注意する」、「三密を徹底的に避ける」→「三密のどれかひとつであっても避ける」と具体性を持たせました。更に「必要に応じ、抗原検査簡易キットやPCR検査を活用する」という、最近の検査事情も盛り込まれました。

ワクチン接種はセンシティブな課題

ワクチン接種については、新型コロナウイルス感染症対策本部の「ワクチン・検査パッケージ制度要項」を紹介するにとどめ、ガイドラインの中では具体的に言及していません。多くの自治体では、まん延防止措置が出された状況下でも、行動制限緩和のため、飲食店等における「ワクチン・検査パッケージ制度」を実施しており、ワクチン接種証明や検査の結果陰性であることの証明等がないと利用できない店が増えています。しかし、一方でワクチン接種に反対する人もおり、極めてプライベートな側面もあることから触れにくいことかと思えます。

信州アルプスシニア合唱祭 ゴールデンウェーブin伊那

信州アルプスシニア合唱祭は4月13日(水)～14日(木)、長野県伊那文化会館にて行われる、シニア世代＝ゴールデンエイジの合唱祭です。参加資格は、最低50歳以上・平均60歳以上、人数制限なし(募集は終わっています)。講師には、指揮者の岸信介氏と古橋富士雄氏を予定しています。筆者は彩の国プラチナ混声合唱団で出場します。

この合唱祭は、2008年より横浜みなとみらいホールで行われていた国際シニア合唱祭『ゴールデンウェーブin横浜』の会場が改修工事で使えなくなったため、それを引き継ぐような形で始まりました。彩の国プラチナ混声合唱団は横浜の過去の大会で、2017年うるわし賞、2018年最優秀賞、2019年日野原賞を受賞しています。

http://rkato.sakura.ne.jp/music/m163_goldenwave_in_yokohama2019.html

第12回国際シニア合唱祭『ゴールデンウェーブin横浜』は、2023年4月17日(月)～19日(水)の開催が決まりました。

募集要項は、6月頃出る予定です。詳しくは下記をご確認ください。

<http://goldenwave.sakura.ne.jp/>

